

2014年3月号

3月15日(土)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 210



冬も終わりか…

記録的な少雪は相次ぐ暴風雪のおかげ?で帳尻が合ったようです。
3月に入り最高気温がプラスになると、日差しの暖かさにほっとします。
ビジターセンター裏の森ではカラ類がさえずりを始めました。
湧水地ではフキノトウが芽吹き、タンチョウが頻繁に顔を出しています。
目立たないところで着実に春は訪れています。

～温根内ビジターセンター 木道周辺の自然情報～



【サルオガセの仲間】
 木に引っ掛かっている枯れた植物のようにも見えますが、地衣類（ちいらい）と呼ばれる菌類と藻類の共生体です。木道沿いのハンノキ林内でよく見られます。



【ウメノキゴケの仲間】
 木の幹に張り付いた苔に見えますが、こちらも地衣類です。環境の変化に弱く、大気汚染の指標にもなります。地衣類が多いとそこは豊かな環境であることがわかります。



【ハンノキの花芽】
 榛 カバノキ科
 ハンノキはとても目立たない花を咲かせます。雄花に比べ雌花の花芽はさらに小さく目立ちませんが、もうすぐ開花時期を迎えます。



【ナガバヤナギの花序】
 長葉柳 ヤナギ科
 春が近づき芽鱗（がりん）が落ちるとふわふわの「猫柳」が現れます。この後膨らんで、目立たない花をたくさん咲かせます。



【アキタブキ(フキノトウ)】
 秋田路 キク科
 鶴居軌道跡の湧水地付近で芽を出しています。他の場所よりも暖かい湧水地付近は、いち早く春を感じられる場所です。



【クロカワゲラの仲間】
 日の当たる雪面でよく見られます。冬場に羽化・繁殖し、水中に卵を産む不思議な生態で知られます。雪の上を歩いていることから「セッケイムシ」とも呼ばれています。

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

*表紙の写真 上：コアカゲラ 中左：ペニヒワ 中右：アトリ 下：エゾシカ

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

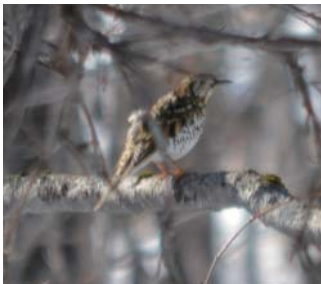
森の中ではカラ類のさえずりが始まりました。キツツキのドラミングもそろそろ聞こえてきます。冬鳥はそろそろ繁殖地への旅立ちが始まります。湿原内ではオオワシを見る最後のチャンスです。双眼鏡を持って木道を歩いてみましょう（貸し出し無料）。



【ベニヒワ】紅鷯 アトリ科
日本では冬鳥で、主に北海道に渡ってきます。温根内周辺では10羽ほどの群れでハンノキの実をついばむ姿を目にします。額の赤と黄色い嘴が特徴の人気の冬鳥です。



【アトリ】
花鷯 アトリ科
冬鳥ですが温根内では春先に現れることが多いです。雪が融けた管理用道路脇の法面で餌を探している姿が見られます。



【トラツグミ】虎鷯 ヒタキ科
鶴居軌道跡沿いの湧水地で見かけます。北海道では夏鳥ですが、一部越冬もします。繁殖期の夜に鳴く奇妙な声は「鷯（ぬえ）」の鳴き声だと考えられていました。



【ツグミ】鷯 ヒタキ科
冬鳥として全国に渡来します。温根内では厳冬期を除いた秋から春にかけて鶴居軌道跡沿いで木の実などをついばむ様子がよく見られます。

○温根内木道周辺で観察された鳥（2月15日～3月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■アオシギ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■ケアシノスリ■コゲラ■コアカゲラ■アカゲラ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■トラツグミ■ツグミ■アトリ■ベニヒワ■シメ

☆☆☆温根内木道 旬の自然を楽しもう♪「湿原の春さがし」☆☆☆

湿原は雪と氷に閉ざされ、春を感じるにはまだまだ早いと思われませんが、いきものたちは春に向けて着々と準備を進めています。そして少しずつですが、春の兆しが見え始めました。

ここ温根内で一番早く春が訪れる場所といえば鶴居軌道跡に沿った場所にいくつも見られる湧水地周辺です。マイナス20℃を下回る真冬でも凍ることがなく、一年中10℃前後の湧水を枯らすことがありません。夏はとて冷たく感じますが、真冬の気温と比べると暖かく、水生昆虫やエゾアカガエルをはじめ、様々ないきものたちが冬の間身を潜め、それらを餌に春を待ついきものもいます。

周辺の環境よりも比較的暖かい湧水地周辺では春の訪れが早く、この時期に春を探すならここがおすすめです。アキタブキ



湧水を利用するタンチョウの足跡



湧水地に芽吹いたアキタブキ

（フキノトウ）は3月上旬に早くも芽吹き、春の気配を感じられます。

日当たりの良い鶴居軌道跡に面した場所のナガバヤナギの冬芽は芽鱗を落とし、ふわふわの「猫柳」状態になっています。その他にもミズナラやサワシバなどの樹木も冬芽を膨らませ、春に向けて準備を進めています。

木道沿いのハンノキはそろそろ開花時期です。花粉症の人は（裏へ続く）



ミズナラの冬芽



要注意ですが、膨らんだ冬芽を見ながら、先月ご紹介した卵の状態です。春を待つミドリシジミの卵を探してみるのはいかがでしょうか？

ビジターセンター周辺ではハシブトガラやシジュウカラなどのカラ類のさえずりが始まりました。じっくりと観察するとあちこちで春を感じることができます。本格的な春を前に目立たない春を探してみるの楽しいものです。

☆☆☆自然ふれあい行事「春を待つ湿原ハイク」が開催されました☆☆☆



3月9日（日）、ビジターセンターの前指導員でパークボランティアの若山氏を講師に、寒さが緩み始めた湿原で、生き物が春を待つ姿を観察するイベントが開催されました。まだまだ雪に覆われている湿原で、膨らんできた木々の冬芽、冬芽の固い皮（芽鱗）が早くもとれてふわふわの綿状の花序になっているヤナギ、卵の状態です。越冬する昆虫などを観察したり、湧水の中でじっとしている生き物やエソユキウサギの食痕の話などから、参加者は「春を待つ湿原」を肌で感じました。参加者：7名

☆☆☆☆☆イベントのご案内（4月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込みはこちらまで ☎ 0154-65-2323
♪早春の湿原ハイク
〔日時〕4月13日（日）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター
一見何も無いように見える湿原にも春が訪れています。そんな目立たない春を探しながら木道を散策してみましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと） ⇒お申し込みはこちらまで ☎ 015-487-3003
♪春のバードウォッチング
〔日時〕4月19日（土）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料 〔場所〕蝶の森（茅沼憩の家駐車場に集合）
渡り鳥の中継地シラルトロ湖で、野鳥観察を楽しみましょう。

※近隣施設の釧路市湿原展望台の遊歩道が損壊のため一部閉鎖になっております。温根内から湿原展望台まで歩く場合は注意が必要です。詳細は湿原展望台までお問い合わせください。Tel 0154-56-2424

～開館時間が変わります～

4月1日より開館時間が変更になります。夏季（4/1～10/31）の開館時間は10:00～17:00です。夏時間とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。木道を歩く際には防寒対策を十分に行いましょう。

月刊 温根内通信 No.210
発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
〒085-0036
北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kk946/
開館時間：10:00～16:00（4月～10月は17:00まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館） 入館無料